

Bulletion of Kagoshima
Prefectural Archaeological Center

From JOMON NO MORI

No. 13 CONTENTS

A case of stone producing area at the Simazu family graveyard
of the Satsuma domain and a soul grave.

Tadahiro Kurokawa

About a syone wall Kagoshima castle after Genroku.(2)

Shiro Abiru

Producing area tilea made in Mashiki Town,Kumamoto Prefecture.

Shiro Abiru

〈Introduction of materials〉

Product made of fang from Euchi Shell mound.

On the Way Class Practice.

Tatsumi Yubasaki

View for the Archaeological Cultural Prorerties Management
in Kagoshima Prefecture based on Statistical Data

Kouichirou Mori

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the 31th year in Heisei & 1st year in Reiwa

Kagoshima Prefectural Archaeological Center
March 2021

研究紀要・年報

縄文の森から

From JOMON NO MORI

第13号

薩摩藩主島津家墓所における石材産地の一事例と招魂墓
黒川 忠広

鹿児島城跡元禄以降の石垣について(2)
阿比留 士朗

熊本県益城町所在土山瓦生産地について
阿比留 士朗

〈資料紹介〉江内貝塚出土の牙製品

ワクワク考古楽(授業支援)の実践について
湯場崎 辰巳

統計資料からみる鹿児島県の埋蔵文化財保護の
これまでと今後の展望
森 幸一郎

平成31・令和元年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター
2021.03

研究紀要・年報

縄文の森から

第13号

二〇二一

鹿児島県立埋蔵文化財センター

『縄文の森から』第13号 目次

薩摩藩主島津家墓所における石材産地の一事例と招魂墓

黒川 忠広・・・・ 1

鹿児島城跡元禄以降の石垣について（2）

阿比留 士朗・・・・ 9

熊本県益城町所在土山瓦生産地について

阿比留 士朗・・・・ 14

〈資料紹介〉 江内貝塚出土の牙製品

・・・・ 19

ワクワク考古楽（授業支援）の実践について

湯場崎 辰巳・・・・ 21

統計資料からみる鹿児島県の埋蔵文化財保護の
これまでと今後の展望

森 幸一郎・・・・ 31

平成31・令和元年度年報・・・・ 45

〈資料紹介〉 江内貝塚出土の牙製品

Product made of fang from Euchi Shell mound

1 はじめに

江内貝塚は、出水市高尾野町所在の縄文時代前期から中期の貝塚である。笠山東側の舌状の小支丘先端部の斜面にあり、東に江内川及び野田川の沖積低地を臨む（図1）。

当貝塚は故池水寛治氏及び池水氏が顧問を務めていた県立出水高等学校考古学部によって、昭和36(1961)年4月29日～5月1日・5月3日～5月7日の期間にはじめて学術的な発掘調査が行われ、その後平成3(1991)年には、高尾野町教育委員会により白石川河川災害関連事業に伴う確認調査が実施された。調査の結果、遺構では、「孔打製石棒頂部」とする石器が頂部に置かれた配石遺構等が検出され、その北側に仰臥伸展葬の人骨が出土している。出土遺物では、縄文中期から後期初頭土器の前後関係を示す層位的な出土状況がみられ、上層から南福寺式→阿高式→並木式の順に出土している。また、鹿の角などに穿孔、線刻を施す装飾品も出土している。

今回は、県立埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）が取り組んでいる、故河口貞徳氏が調査した遺跡の記録や考古資料の整理を行うなかで確認した、江内貝塚出土の牙製垂飾品について紹介する。

2 牙製品

図2は、江内貝塚出土の牙製品である。『出水郷土誌』及び『日本考古学年報14(昭和36年)』に写真の掲載があり（写真1）、昭和36年調査時出土の牙製品と考えられる。上下部を欠損するが、下半部を中心に各面は研磨され光沢を帯びる。内側の面には、2本を1単位とする沈線がほぼ等間隔に3か所に刻まれており、上端破断面に残る沈線も同様の沈線である可能性がある。また、下縁には貫通する穿孔の一部が残存している。「I2」という注記がみられ、他の骨角器や土器にも同様の注記がみ

られた（写真2）。

3 牙製品の保管状況

この牙製品は、埋文センター所蔵のいわゆる「河口コレクション」の中で、上加世田遺跡（南さつま市加世田）出土遺物とともに保管されていた。河口氏が江内貝塚の調査に参加したという記録は確認できなかったが、池水氏が河口氏宛に送った江内貝塚の調査成果を記した葉書が2枚確認できた。河口氏が牙製品を保管していた経緯は不明であるが、遺跡の調査成果についての情報共有は積極的に行われ、江内貝塚の資料の重要性については河口氏も把握していたと考えられる。今回紹介した牙製品以外の江内貝塚出土遺物は、出水市埋蔵文化財収蔵室・出水歴史民俗資料館・高尾野郷土館に保管、展示されている（令和3年2月10日確認）。

4 おわりに

以上、江内貝塚の牙製品について紹介した。牙製品の保管場所の推移やその経緯は明らかにできなかったが、実測図作成や詳細な観察等を行うことができた。

最後に、本稿を執筆するにあたって、横手浩二郎氏、出水市産業振興部文化財課の岩崎新輔氏、出水歴史民俗資料館の肘岡隆夫氏に御指導・御協力を頂きました。末筆ながらお礼を申し上げます。

【引用・参考文献】

- 出水郷土誌編集委員会 1968「第一編 先史時代 第二章 縄文時代」『出水郷土誌』 pp. 56-75
池水寛治 1966「鹿児島県出水郡江内貝塚」『日本考古学年報14(昭和36年度)』日本考古学協会 pp. 115-116

（文責：松山初音）

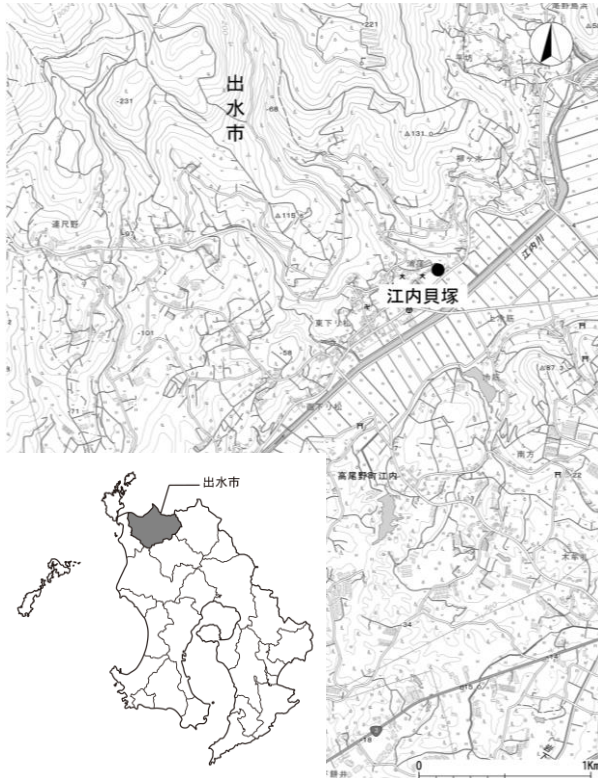


図1 江内貝塚位置図

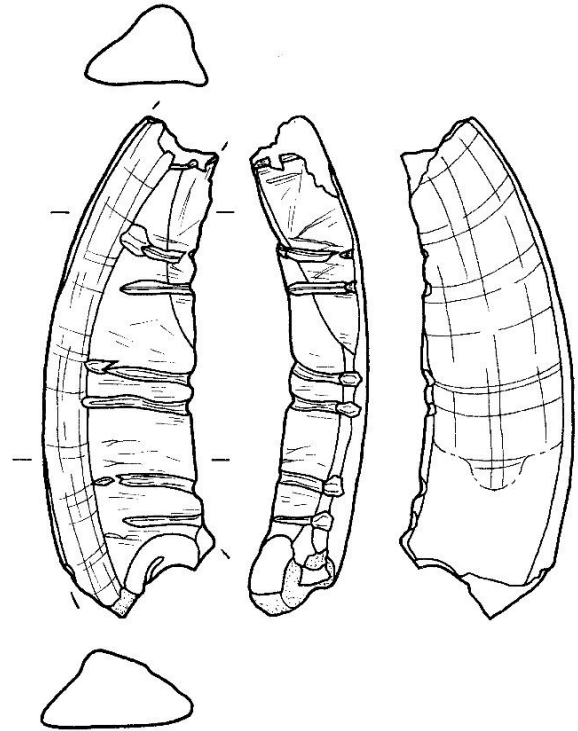


図2 江内貝塚出土牙製品実測図(原寸)

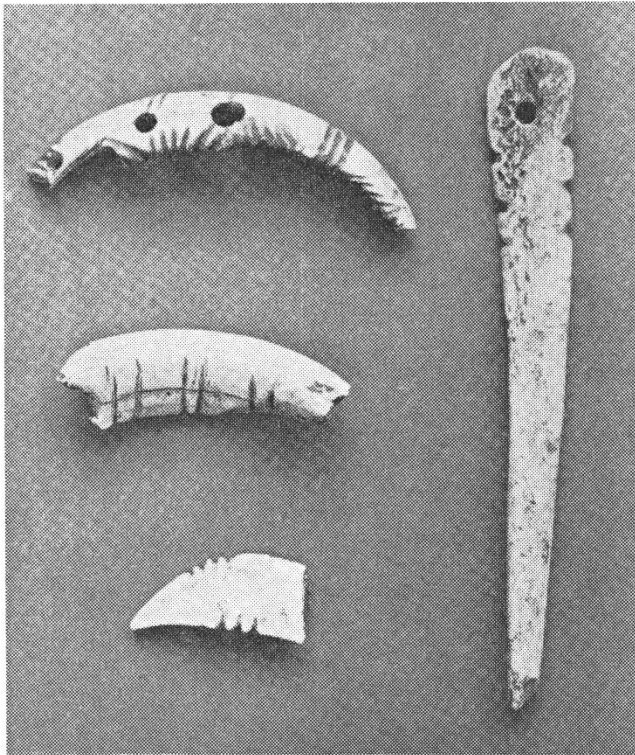


写真1 江内貝塚の骨角器
(出水郷土誌編集委員会 1968 より転載)



写真2 江内貝塚出土牙製品写真
(下段は骨角器の注記の比較)

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第13号

発行年月 2021年3月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail maibun@jomon-no-mori.jp

URL <https://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1
